

# ビッグパレットふくしまにおける避難所支援の報告

滋賀医科大学  
社会医学講座公衆衛生学部門  
大久保孝義

## 経緯

- ・ 滋賀県が継続的に支援している福島県の避難所等における支援活動に、公衆衛生専門家として指導・助言を行うため、滋賀県から依頼を受けて参加。
- ・ 期間：平成23年4月25日(月)から5月4日(水)

平成23年4月25日(月)

小野町に移動・滋賀チーム先発保健師より報告

## 滋賀チーム先発保健師と当該地域担当県中保健所との打合せ結果

- ・ 支援中であつた、広野町住民の一時避難先である小野町体育館(避難者二組まで減少・他は二次避難)、および二次避難先である石川町の宿泊施設(全数調査終了し、継続支援必要者の訪問のみ)における支援ニーズは縮小し、広野町保健師・県中保健所保健師で対応可能となっている
- ・ 一方、郡山市(市自体は既にほぼ通常の状態)にあるビッグパレットふくしまは、避難者が1,500名生活しており、まだ一次避難所の支援が必要な状況であるが、一部外部支援スタッフが引き上げつつあり、支援追加必要

滋賀県チームによる小野町体育館・石川町二次避難所支援は終了し、郡山ビッグパレットふくしまの支援に入る方針になったとのこと

平成23年4月26日(火)

滋賀チーム先発保健師：避難者地元保健師(広野町)への引き継ぎ  
郡山に移動ビッグパレットの現状把握

## 【概要】

- ・ 数万人規模のイベント可能なコンベンションセンター
- ・ 3/16頃から、約1,500名が避難生活。
- ・ 原発避難の富岡町(最多)・川内村の住民が大多数。  
他の自治体の住民は150 160名。
- ・ 1階から3階がある。大方が段ボールで仕切ったスペースで過ごしている。
- ・ 小児・超高齢者はほとんどおらず、避難生活できる人がセレクトされている様子。
- ・ 慢性期であり、緊急を要する支援ではない。

## ビッグパレットの現状：居住状況

- ・ もともと事務室・会議室であつた小部屋にも避難者が早い者勝ちで入っていて、避難者の生活の場と事務所が入り交じっている。
- ・ 1階の一部に計画的に区割りした場所があり、順次移動するように促しているが、難航している。
- ・ 人数が多いため、行政は近隣・会津の宿泊施設への2次避難を勧めているが2次避難は週100人程度となかなかすすまない。
- ・ 2次避難先は7月末までの予定のため、直接仮設住宅に移るのを待つもりの住民もいる。
- ・ 富岡町、川内村の仮役場(災害対策本部兼用)が敷地内にあるため情報伝達遅延への懸念もある。



## ビッグパレットの現状：保健活動

- ・ 県中保健所の調整により、外部支援保健師・看護師が活動している。
- ・ 施設を5区分して、居住者マップをもとに、ラウンドを実施し、健康管理・食品衛生管理・場所移動確認(転入・転出)を行う。
- ・ 要医療・要支援・要観察者については、個別健康記録票に記録し、全体ミーティングで県中保健師に報告する。
- ・ 県中保健師は情報を集約・管理し、必要に応じて救護所医師・薬剤師や、住民所属自治体保健師・ケアマネジャ等につないでいく。
- ・ トイレのラウンドを行い、清掃状況チェックを行う。ノロウイルスの感染で2週間程度かかり切りであったが、今は落ち着いてきている。
- ・ 行政的対応が必要な部分は全体ミーティングで福島県対策本部支援チームに報告する。
- ・ 居住者マップはラウンド結果に基づいて同チームが毎日更新している。
- ・ 外部支援として北九州のチームが29日に活動を終了し、看護協会も一次的に撤退するので、そこを滋賀県が引き継ぐ方向へ。
- ・ 2次避難者には今のところ対応できていない(5月以降地元職員中心で対応予定と)。

## ビッグパレットふくしま：1日の活動の流れ(午前)

- ・ 8：00すぎ 準夜勤者からの要注意避難者の申し送り
- ・ 8：30 トイレの清掃状況の確認および物品の補充  
ラウンド者の補足業務：ペーパータオル、手指消毒薬、ハンドソープの補充管理、  
トイレの汚染状態の確認(便座、便器、手洗い)  
清掃業者への清掃依頼(トイレ清掃、トイレトペーパーの補充)
- ・ 9：00 全体ミーティング  
前日夕方のミーティングでの質問や改善に対する回答  
ビッグパレットの住人マップの配布(前日調査分の入所者の所在確認結果の更新分)  
ラウンドの割り当て(人数、連絡事項等)
- ・ 9：30 各部署ミーティング  
その後ラウンド
- ・ 11：00 ラウンドリーダーへの結果報告
- ・ 11：30 リーダーからの取りまとめを(県中保健所)へ報告

## ビッグパレットふくしま：1日の活動の流れ(午後)

- ・ 12：00から13：00 昼食
- ・ 13：00 各部署ミーティング  
その後ラウンド
- ・ 14：30 身の回りのごみを廃棄させるよう一斉放送とともに不要な食品食べ残し等の回収(火・金)
- ・ 15：00 トイレの汚染状況確認と物品の補充(ペーパータオル、手指消毒薬、ハンドソープ)  
清掃業者への清掃依頼(トイレ清掃、トイレトペーパーの補充)
- ・ 15：30 各部署ミーティング(要観察者、課題のまとめ)
- ・ 16：30 全体ミーティング  
各部署からの申し送り(新規罹患者、要観察者、課題とその対策決定)

## ビッグパレットの現状：行政・医療機能

- ・行政機能：  
福島県対策本部支援チームが館内に設置。  
富岡町・川内村役場の統括・支援。
- ・医療機能：  
急性期はMAT、その後しばらく避難医師(双葉郡医師会長ら)・薬剤師が担当。その後、日本・県医師/薬剤師会の調整により、外部支援医師・薬剤師・看護師による救護所が設置されている。当初は診療・投薬をメインに行っていたが、徐々に外部医療機関への紹介受診支援・服薬管理サポートにシフト。現在は急患対応が主体。避難医師たちは徐々に就職。

## 平成23年4月26日(火) 活動 続き

- ・小野町に戻り、同日到着した、交代派遣の滋賀チーム(保健師三名・薬剤師一名)にビッグパレットの現状を説明
- ・その後、滋賀チーム先発保健師とともに、小野町の巡回診療を担当されていた田村郡医師会長に支援終了のごあいさつと今後の活動方針お知らせのため訪問

## 平成23年4月27日(水)

- ・小野町体育館避難所の閉所
- ・避難所事務所物品引き上げ
- ・先発チームのお見送り
- ・ビッグパレットへの物品移動
- ・ビッグパレットに交代派遣チームとともに移動、ビッグパレット館内案内・支援内容説明
- ・夕方の保健衛生関係外部支援者全体ミーティングに参加  
駐車場車内泊者のラウンドニーズあり滋賀で対応することに
- ・宿泊施設の移動

## 平成23年4月28日(木) 以降：出来事

- ・平成23年4月29日(金)  
看護協会の一時的派遣中止に伴い、そのサポートため厚生労働省看護課長・看護推進室係長が来所、その対応と、看護協会担当業務の引き継ぎ・説明・実施依頼
- ・平成23年4月30日(土)  
1階Bフロアで、自治会(班)の編成、(清掃・給湯等)
- ・平成23年5月1日(日)  
ボランティアセンター、FM局が開局。  
避難者も参加する形での運営

## ビッグパレットふくしま避難所の課題：偏った食事

- ・セブンイレブンに委託
- ・4/28までは、三食おにぎりまたはパンに、野菜ジュース・バナナなどが時につく程度
- ・4/29から夕食のみ弁当が配給されるようになったが、野菜が少なく、塩分が多い。  
高齢者(65歳以上35%)・高血圧者も多く、今後循環器疾患リスク上昇の危険
- ・災害救助法で一日当たり食費は1000円が上限となっており、その中で野菜まで入れてもらうのは無理、と県対策本部。
- ・避難者内に貧富の差があるが、行政としては公平に食事供給する必要  
お金・車がある避難者は、時々外食しているが、どちらもいない人もいる

## ビッグパレットふくしま避難所の課題：偏った食事2

- ・自炊不可能  
施設は内部での煮炊きスペースごく一部のみ  
多くのスペースはもともと展示ホールのため火気原則禁  
外部スペース一か所に炊き出し場所  
ボランティアが時々大釜二つ分炊き出ししているが、公平な1500人配布はできていない(ほぼ不可能)。  
洗い場もほとんどない トイレは衛生面から困難  
知人の小熊参院議員(会津若松)に視察依頼・同行説明、対策検討を依頼  
災害救助法の上限増額の可能性について、県災害対策本部に伝達・検討依頼(阪神大震災時の内閣府資料にて、前例あり)

## ビッグパレットふくしま避難所の課題：人の出入り・ボランティア

- ・有名な避難所(管総理・東電社長・国生さゆりなどが訪問、報道も多い)なので、様々な人間が出入りしている。GW中特に多かった。
- ・ボランティア・マスコミだけでなく、不審者、義援金・保険金・住宅・車などに関連したさまざまな詐欺師も入ってきているらしい。しかし大規模なため人の出入りが把握できない。
- ・所属不明なマスコミ・ボランティアが入っており、住民のプライバシー等に配慮が必要。
- ・医療関連ボランティアの受付は原則、県や災害対策本部等からその団体が確認できた者(団体)に限っているが、勝手に入る医療ボランティアスタッフも多々あった
- ・GW中は独自に、ラウンドする人間が多く、異なった人が何度も避難者を訪問・質問することとなり、避難者の戸惑いも見受けられた。
- ・これまでの経過を知らずに、突然参加し、一方的に改善策を提示する医療ボランティアもいた(らしい)。

## ビッグパレットふくしま避難所の課題：避難者の意識

- ・2次避難所への移動はすこしずつあるので、避難者数は徐々に減っている(5/4段階で1200名)。
- ・生活スペースの環境は悪いが、強制的に移動させられたこと、避難先行政支援が当初からあったこと、ボランティアが自由に活動しており、いろんなことをしてくれること、などのため避難者が受け身・人に頼る生活に慣れてしまい、自分たちで何かしようという意識が希薄である。自分たちで自立するように、自分たちで何とかしていこうという気をもたせていくことを検討しないといけない。  
富岡町民と協議をもったが、今ひとつ反応がない(町保健師)
- ・今後、通常の生活へ自立していくよう避難者が活動できる場の提供が課題。
- ・今後の正確な見通しが国・県・東電から示されることも急務。

## ビッグパレットふくしま避難所の課題：環境衛生

- ・避難者の食品管理(配給・購入食品をため込んでいる)  
週二回14:30にアナウンス後、声かけ回収を実施。しかし昼間不在が多く、りんごなど食品が腐っていても、勝手に処分はできない。  
夕食後に放送で廃棄を促す。チラシを配布する等。
- ・衛生害虫の発生予防・対処  
毛布のダニ、段ボールにゴキブリ卵産みつけなどが発生する前に、毛布等の交換や段ボールの廃棄を。  
毛布は一人5枚は持っている。必要枚数把握して不公平の無いように交換必要。  
食事をするスペースと寝泊まりするスペースを分けることも有用だが現在の避難者数とスペースでは困難。

## ビッグパレットふくしま避難所の課題：環境衛生2

- ・館内の換気  
建物の構造上難しい。  
換気の悪い部分あり、咳・喘息の悪化あり  
天気のいい日は換気をするよう声かけてドアを開ける。  
条件のよい場所への移動をすすめる。  
(その後、救護所を縮小移転し、条件悪い場所の人をその跡地に移動する予定となった、  
とのこと)
- ・夏場冷房の温度管理  
人によって感じ方が違う  
フロア全体を管理する部門との協力のもと、個別に今後対応必要。サーキュレーターの導入も  
考慮。

## 様々な健康問題

- ・紹介受診を促進中。総合病院受診を想定し、巡回送迎バスも設置。しかし総合病院に受診した  
経験がなく、戸惑う住民もいる  
個人医院のマップを作成・受診を勧奨。
- ・重複投薬の発生  
(持参薬・救護所一時処方薬・紹介受診時新規処方薬に同効能の異なる薬が同時に存在)  
ラウンド時間取り・お薬手帳による薬剤師管理、カレンダーによる服薬管理
- ・精神科受診中患者  
安積ホスピタル(郡山市内精神病院)を中心とした受診・週二回出張診療で対応中。
- ・館内禁酒だが隠れ飲酒者あり
- ・入浴後滞在場所までの屋外歩行中が寒い
- ・高齢者の運動教室が必要
- ・エコノミー症候群の健診  
5/6福島医大 + ヨルダンチーム実施  
高齢者・運動不足者・静脈瘤ある人  
駐車場車中生活者  
集団生活に気を使う疾病(パーキンソン病など)ある人  
ペット飼い主・神経質?な人  
など対象  
20名に血栓あり、40名に弾性ストッキング処方(翌日にはみなさん脱いでいた?)
- ・血圧計は不足気味 オムロン通じて手配

## 今後

- ・状況に対応した継続的な外部支援が必要
- ・ただし、原発問題の先が見えない限り根本的解決はない
- ・仮設住宅は必要数がいつどこにできるか?
- ・仮設住宅移動後もケアが必要  
仕事なし  
見知らぬ土地・人、すでに集落はバラバラ  
車ないと生活困難だが・・・  
いつ自宅に戻れるか・・・一時帰宅も不明  
(注 その後の情報で川内村は5/10になったとのこと)